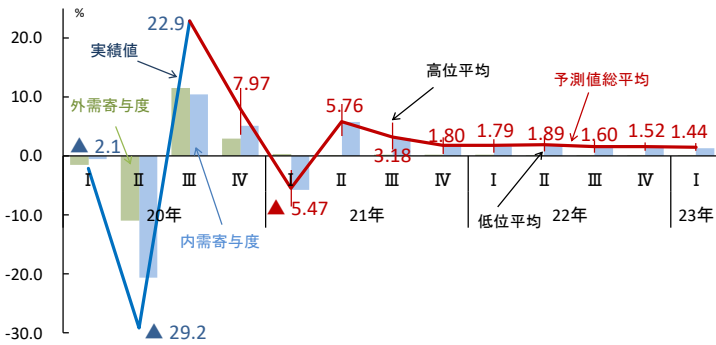


1 実質経済成長率(前期比年率)は2020年10～12月期7.97%、21年1～3月期▲5.47%。

実質経済成長率(前期比年率)は20年10～12月期は前月より上方に、21年1～3月期は下方に修正され、それぞれ7.97%と▲5.47%。4～6月期以降プラスに転じる見込み。



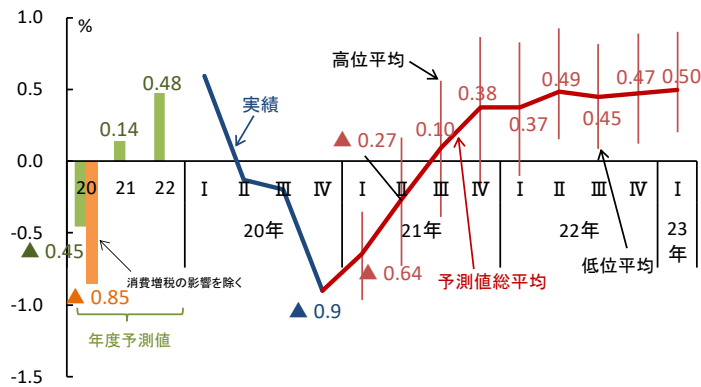
◆20年IV期(10～12月期)実質GDP及び内訳の増減率(%)

実質GDP 前期比年率 (前期比)	民間最終消費支出	民間企業設備投資	財貨・サービスの輸出	財貨・サービスの輸入
7.97 (1.93)	1.65	2.03	9.06	4.66

(注) 内訳4項目は前期比。

3 消費者物価上昇率(前年同期比)

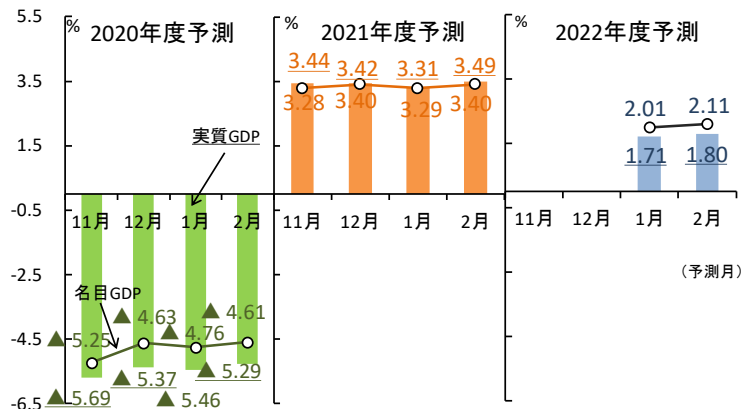
20年10～12月期の▲0.9%(実績)から次第に低下幅が縮小し、21年7～9月期にプラスに転じる。年度では、20年度は▲0.45%、21年度以降プラスに転じる。



(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

2 20・21・22年度の実質経済成長率は▲5.29%、3.49%、1.80%と上方修正。

20年度の実質経済成長率は▲5.29%と2年連続でマイナス成長となるが、21年度以降プラスに転じる。名目成長率は19年度の0.5%(実績)から、20年度にマイナスとなり、21年度以降はプラスに転じる見込み。



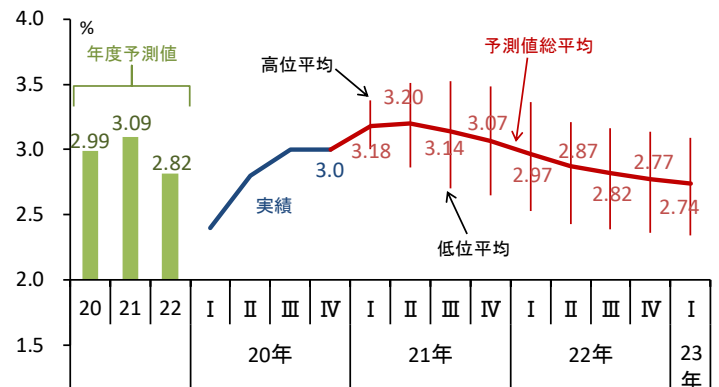
	2020年度	2021年度	2022年度
内需寄与度	▲4.2 (▲3.9/▲4.5)	2.3 (3.1/1.8)	1.7 (2.5/1.0)
うち民需	▲5.0 (▲4.7/▲5.2)	1.9 (2.7/1.1)	1.5 (2.2/0.9)
うち公需	0.8 (0.8/0.7)	0.5 (0.8/0.3)	0.1 (0.4/▲0.1)
外需寄与度	▲1.1 (▲0.9/▲1.4)	1.1 (1.7/0.6)	0.1 (0.6/▲0.4)
実質GDP 成長率	▲5.29 (▲4.90/▲5.65)	3.49 (4.18/2.90)	1.80 (2.36/1.29)

(注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)

(注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。

4 失業率

21年4～6月期の3.20%まで上昇、その後23年1～3月期まで低下が続く。



5 20年10～12月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、20年10～12月期の動きを尋ねた。上昇するという回答が多い項目は、「公的固定資本形成」と「政府最終消費」だった。「民間在庫変動」は低下するという回答が多かった。

（回答数 36）

（実質）	民間 住宅投資	民間 在庫変動	公的固定 資本形成	政府 最終消費	公的 在庫変動
上昇	23	1	35	27	1
横ばい	2	7	0	6	35
低下	11	28	1	3	0
回答数	36	36	36	36	36

（注）フォーキャスター数（名）。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

6 景気の転換点・・・18年10月が山

18年10月の景気転換点（山）（政府見解、暫定）の次の景気転換点（谷）はもう過ぎたかどうかを聞いた。（回答数 35）

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・35名（前月調査 35名）

転換点（谷）は2020年4月・・・1名、2020年5月・・・33名、2020年7月・・・1名

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・0名（同0名）

転換点（谷）を過ぎたと思う人にその次の景気転換点（山）も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・0名（前月調査 0名）

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・35名（同 35名）

今後1年以内に転換点（山）がくる確率の予測の平均・・・27.1%（同 27.9%）

7 （特別調査）金融政策と金利見通し

1) 金利見通し

21、22年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期政策金利は、21年末は回答者全員が現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」と回答し、22年末も「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。（回答数 35）

長期金利の誘導目標は、21年末は回答者全員が現行並みの「0.0%以上0.1%未満」と回答し、22年末も「0.0%以上0.1%未満」が多かった。（回答数 35）

長短金利の予想値分布 （%）	▲0.3 未満	▲0.3 ～ ▲0.2	▲0.2 ～ ▲0.1	▲0.1 ～ 0.0	0.0 ～ 0.1	0.1 ～ 0.2	0.2 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0以上
		▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼		
短期の政策金利	現行=▼											
	2021年末			35								
	2022年末		1	33	1							
長期金利の誘導目標	現行=▼											
	2021年末				35							
	2022年末			1	33	1						

（注）フォーキャスター数（名）。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上、0.0%未満」の意味。

2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、長期金利変動幅の変更など4名のフォーキャスターが答えた。
[詳細は9ページ参照]

8 (特別調査)米国の金融政策

21、22 年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。21 年末は回答者全員が「0%以上 0.25%未満」と答えた。22 年末も「0%以上 0.25%未満」が多かった。（回答数 36）

米FFレートの予想値分布 (%)	▲ 1.0% 未満	▲1.0 ～ ▲0.75	▲0.75 ～ ▲0.5	▲0.5 ～ ▲0.25	▲0.25 ～ 0	0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5
2021年末						36					
2022年末						34	1	1			

(注) フォーキャスター数 (名)。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上、1.0%未満」の意味。

9 (特別調査)中国製造業PMI

中国製造業PMI（国家統計局公表）に関して 50 超を「上昇」、50 で「横ばい」、50 未満を「下降」とし、見通しを尋ねた。21 年 1～3 月期以降、「上昇」が多い傾向が続く。（回答数 34）

	2021 I	2021 II	2021 III	2021 IV	2022 I	2022 II
上昇	27	30	26	26	26	25
横ばい	6	3	8	7	8	8
下降	1	1	0	1	0	1

(注) フォーキャスター数 (名)。

10 (特別調査)オリンピック開催

今回の予測に、21 年度のオリンピック開催を織り込んでいるかを尋ねたところ、32 名が織り込んでおり、4 名が織り込んでいないと答えた。織り込んでいない場合には、その理由を尋ねた。（回答数 36）

◆2021 年度のオリンピック開催を予測に織り込んでいるか

	はい	いいえ
オリンピック開催	32	4

(注) フォーキャスター数 (名)。

◆予測に織り込んでいない理由

①開催経費がどの程度膨らむのか見通せない	0
②再延期・中止の可能性も否めない	4
③その他	0

(注) フォーキャスター数 (名)。複数回答

11 (特別調査)新型コロナウイルス対策

今回の予測で、新型コロナウイルス対策としての財政出動を、どの程度想定しているかを尋ねたところ、その規模は、19・20 年度の合計を平均でみて名目 GDP 比 11.44%だった。高位 8 機関平均は 16.25%、低位 8 機関平均は 5.11%だった。（回答数 35）

◆想定している財政出動の規模 (2019・20 年度合計)

名目 GDP 比 (%)	11.44
--------------	-------

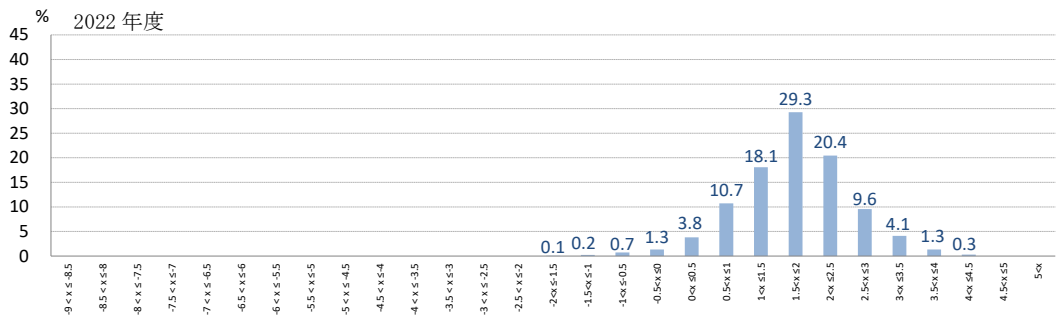
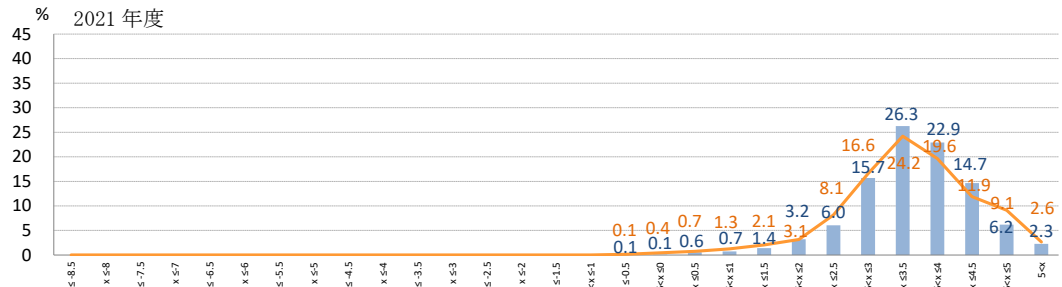
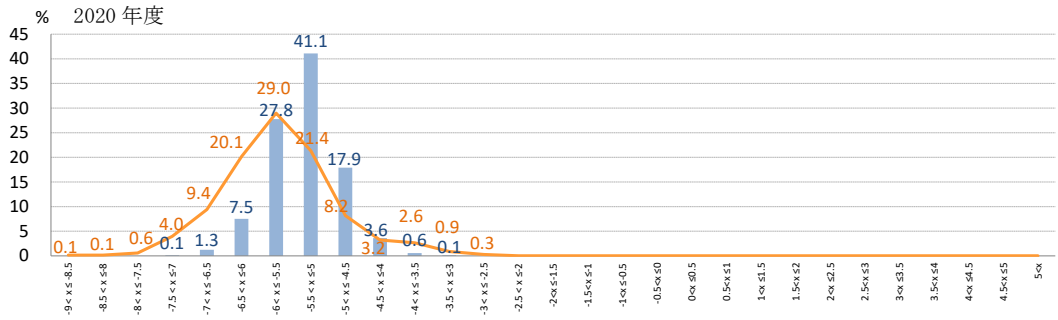
(参考) 海外主要 3 カ国・地域の実質 GDP 成長率予測 (暦年、%)

	米国	ユーロ圏	中国
2020 年	▲3.5	▲6.8	2.3
2021 年	4.39 (3.73)	4.08 (4.24)	8.31 (8.18)
2022 年	3.22 (2.89)	3.49 (3.13)	5.45 (5.54)

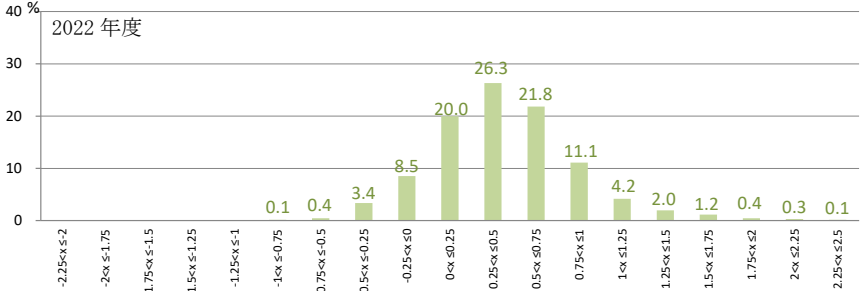
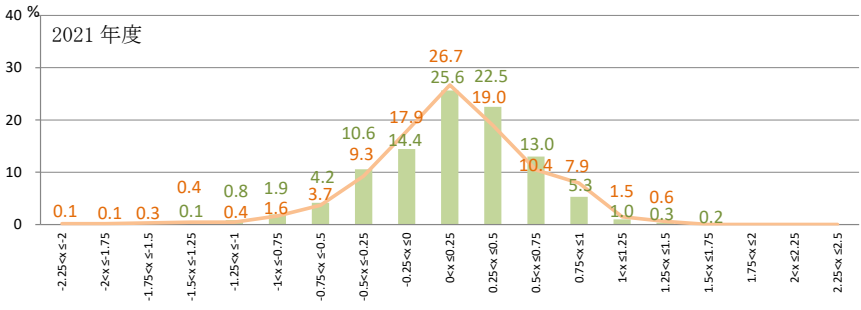
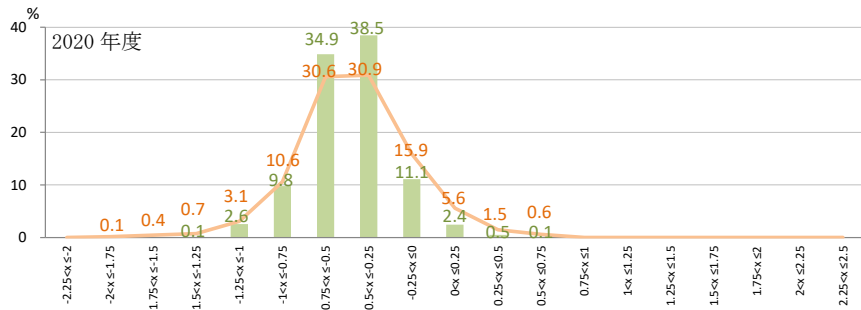
(注) 20 年は実績値。() 内は前月調査。

次回 (2021 年 3 月調査) の公表予定は 3 月 16 日頃

実質 GDP 増加率のコンセンサス予測の不確実性 -各レンジの平均確率-



CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性 -各レンジの平均確率-



(注)各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、20年11月の予測値。